



学校だより

第10号



静 修



令和4年11月25日

学校教育目標「ふるさとを愛し、自立して仲間とともに生きる「静修」の子の育成

「家読大作戦」にご協力いただき

増刊号

本当にありがとうございました！

11月7日（月）～18日（金）まで設定した読書週間、『家読』にご協力いただいて本当にありがとうございました。ほぼ全家庭に取り組んでいただき、「久しぶりに読むと、絵本もいいな。」「昔読んだことを思い出しました。」「自分の子どもに読んでもらいたいと思っていた本でした。」など素敵な感想もいただきました。

また、お父さんお母さんだけでなく、兄弟姉妹、中学生、おじいちゃんおばあちゃんまで幅広くご家族全員で、家読に臨んでいただいたこと、本当にうれしく思います。感想を読んでいると、実際に本を読んでいなくても家族で楽しく取り組んでいただいたことが伝わってきます。3学期も『家読』週間を作りたいと思います。

今回、皆さんが心を込めて書いてくださった感想をすべてご紹介させていただきます。次回の本選びの参考にさせていただけたら幸いです。

【低学年】

★は本人、◆は家族の感想です。

『みずをくむプリンセス』

★ジョージ達はすぐ水が飲めなくてかわいそうと思いました。私も大切に水を飲もうと思いました。

◆自分たちの恵まれた環境は本当にありがたいと思いました。無駄遣いをしたりする自分の生活を反省しました。感謝して過ごしたいと思いました。

◆水は生きていく中で最も大切なものだと思います。水を飲むのにこんなにも大変な思いをしているジョージ達を見て私たちは恵まれた環境で生活しているのだと思いました。勉強や部活が大変でも、文句を言わずに頑張ろうと思えました。

『おまえうまそうだな』

★一番最後のシーンの、ウマソウがお父さんにしがみつくと

「おとうさんじゃないけどなれたんだね」と思いました。

◆最初のティラノサウルスをお父さんだと思うところにびっくりしました。

◆ウマソウとティラノサウルスの絆を感じられる本。題名からは想像もつかないような結末で、読んでいてせつなくなるような気持ちになりました。親と子の関係のようで、色々と感じるところもあり、考えさせるような本でした。子ども達の心にも残ったようでした。



『青い鳥』

- ★ダイヤモンドのついた緑の帽子のダイヤを回すと、まが素敵なお姫さまに見えるなんて、すごいなと思いました。
- ◆まが怖かった。
- ◆「しあわせ」と「よろこび」は、数えきれないほどたくさんあり、「ここではみんなが幸せだから、青い鳥はいらないのよ」とお母さんが言ったところが心に残りました。身近なところにたくさん幸せはあるのだと改めて思いました。

『おとうとバーゲンします』

- ★チェーンは、弟を売ろうとしたけど、いい弟だと思ったから売らないでおこうと思っていました。だから僕も人を簡単に売らないでおこうと思いました。
- ◆弟をアピールしているうちに、弟の良いところに気付き、大切さに気付いて良かったです。兄弟がいるからこそ、このような感情が出てくるのだろうなと思いました。

『山のトントン』

- ★トントンとブルブルがなかなかおもしろいのが、うれしかったです。
- ◆トントンとブルブルの兄弟の関係や家族の仲良さが伝わって、子どもの読む本としてとても分かりやすいと思いました。焼き芋が食べたくなりました。



『どうするどうするあなのなか』

- ★のねずみがやまねこからにげるときがおもしろいから、いつもとしょかんでかっています。
- ◆最初は野ネズミを食べる事しか考えていなかったヤマネコが、命の危機が迫ると誰よりも脱出方法を真剣に考えている様子が、王道の少年漫画の登場人物のようで面白かったです。
- ◆野ネズミさんが食べられそうになっているところがかわいそうだった。もうあなから出ているのに、まだ考えているところが面白かった。
- ◆それぞれが生き延びるために頭脳戦を繰り返しているところが面白い。すでに穴から出ているのに、それに気づかずに一生懸命考えているところがかわいらしい。絵本は大体横向きに描いてあることが多いが、この本は穴に落ちたことを表現するために縦になっているところもポイント。

『ちよとまって、きつねさん』

- ★私は子うさぎが、ちょっと待ってといったことを、うさぎを食べたいといったキツネが食べなかったところが、心に残りました。
- ◆子うさぎは「おやすみなさい」という時に、怖かったかもしれないけど、キツネとじっくり話をして説得しているところが偉いなと思いました。
- ◆自分が食べられないように頭をはたらかせているところがすごいと思った。
- ◆助かるためにいろいろな方法を考えているところと、きつねさんをお願いするのが上手なところ。父うさぎさん、母うさぎさんとちゃんと会えてホッとしました。
- ◆「生きるとは」をうさぎの視点から考えることができる作品で、詐欺などが多発する世の中でだまされているきつねも、今の世を映しているような感じがして、とても面白かった。



『ばあばにえがおをとどけてあげる』

- ★ファーンがばあばに笑顔をとどけるために、さがしたけれど、ワァーイを捕まえるのがむずかしくて、捕まえられなくても、しょんぼりした人に笑顔をとどけてあげるなんて、ステキだなと思いました。
- ◆人のために何かをすることは難しいけど、その気持ちが相手の人にはとてもうれしいし、笑顔になるワァーイのもとなんだと思いました。お母さんたちも疲れていても、いやなことがあっても家族の笑顔を見てるととてもうれしい気持ちになるよ。みんなが笑顔でいられるように、相手の気持ちを考えて、どうしたらみんなが幸せで毎日ハッピーに過ごせるか、考えられる人になれたらいいね！
- ◆おもしろかったです。いっしょうけんめいワァーイをさがすところがよかったです。
- ◆はくしゅしていました。
- ◆家族の笑顔のために、行動できることはすごく良いことだと思います。家族だけでなく友達や先生等、周りの人を笑顔にできるような行動ができるようになるといいね！

【中学年】

『ぶたのたね』

- ★走りの遅いオオカミがブタに追いつけないのが笑えました。ブタの種という空想の事も面白かったです。ぜひ読んでみてください。
- ◆ブタよりも足の遅いオオカミ…ブタにからかわれながらもなんとかブタを捕らえたいと考えていたところ、「ブタの実がなる種」を手に入れました。オオカミは一生懸命育てるも、ゾウに邪魔され捉えることができまませんでした。それでも懲りずにまたブタの種を育てる姿がおかしくて、再び珍事件が起きそうな感じが面白いです。



『もったいないばあさんのてんごとじごくのはなし』

- ★正しい飲み方を教えるところが面白かったです。
- ◆天国に行った瞬間からおばあさんの表情が柔らかくなったのが挿絵から見て取れ印象に残ります。子どものころ祖母がどこかで買ってきた「天国と地獄」の本を思い出しました。よりリアルで怖かったですが、こちらも是非子どもに読んでみてほしいですし、逆に今回の絵本は馴染みやすく良かったです。

『ぼくはなきました』

- ★ぼくと名前が同じだし、似ているところはあるからこの本を選びました。ぼくもふだん自信がないので、この本を読んで何かに自信をもっていきたいです。
- ◆私だったら自分の良いところが見つからないから、私はちょっと主人公に似ていました。最後に私も泣きそうになりました。また何回も読みたいです。
- ◆自分にいいところが見つからない息子と主人公が重なる部分が多く、ぜひ読んでもらいたいと思っていた本でした。一人一人にいいところは必ずあります。読む人が自分だけでなく周りの人の良いところを見つけるきっかけになるといいなと思いました。
- ◆自分の良いところを見てくれる人が、必ずいるということがわかる本だと思います。子ども達もこの本で気付き、自信を持ってくれたらいいなと思います。



『だじゃれ日本一周』

★パンツという一言で、ばくしょうしました。

◆だじゃれ日本一周という本を読んだのは、初めてだったけど、声を出して読むと笑えてよかったです。北海道から沖縄まであったけど、やっぱり自分が住んでいる「てをあげて おうだんほどうで ひょうご（標語）けん」が一番良かったです。



『十二支のはじまり』

★ねずみがねこにあいさつに行く日を一日にずらしたところです。ほかにも牛が夜のうちから神様のところに行っているのに、ねずみはその背中に乗り、門のところで神様にあいさつをして一番になった所です。

◆楽しく十二支の始まりを知れていいと思いました。ねこがねずみにだまされていて、怒っているのがとてもかわいかったです。

◆教訓のあるお話でした。ネズミのようにズルをしたら、その時はいいように思うけど、一生ネコに追われていいことなし（涙）我が子よ、ネコみたいに居眠りせずに先生の話をお聞きしましょう。

◆私も子どものころこのお話を読みました。十二支の秘密を知ってしまったと、とても興奮したのを思い出します。ちなみに中国では亥はブタだったり、チベットあたりはウサギではなくネコが入っているらしいよ。

『おばけの学校』

★ペロがビックリしたら、大きくなるところが面白かったです。

◆読み聞かせを中々することがなく、早口になってしまった時があった。久しぶりに絵本を読んだけど、小説と違った楽しさがあったいいなと思いました。



『ともだちや』

★「お、おまえは友だちから金をとるのか。それが本当の友だちか」というところが感動しました。最後にオオカミの一番大事な宝物をあげるのが、やさしいなとおもいました。

◆「友達はいりませんか。寂しい人はいませんか。友達1時間100円。友達2時間200円。」の狐の掛け声から、「友達はいりませんか。寂しい人はいませんか。何時間でもタダ。毎日でもタダ。」と変わりました。オオカミとの出会いによって変わったキツネが、うれしそうに温かい気持ちになりました。みんなこんな風な出会いによって変わっていったらいいなと思いました。

『ママがおばけになっちゃった!』

★かんどうとおもしろさがあったいいなと思いました。かんどうだけじゃ少し物足りないのでおもしろさが加わっていて、家族でクスクス笑って楽しく読んだら、家読も広がると思いました。

◆子どもを愛おしく思う母親の気持ちが溢れていて、読み進めていくと涙が流れました。親子の深いつながりを感じることができる素敵な絵本です。子ども達が親になった時にもう一度一緒に読みたいと思います。

◆私たちも同じ経験があり、その時はかんとろうと同じ気持ちでした。私ももっといろいろ話したいことがあります。

◆家族を大切にしたいと思いました。かんとろう元気だといいですね。ちなみに僕は元気です。

◆かんとろうが、不安な気持ちをユーモアな言葉で優しく包んで、悲しい気持ちから前向きにたくましく生きていこうとしている姿が、かわいくて、とても愛おしく思いました。

『キミワリーナがやってくる』

- ★キミワリーナって何だろうと読んでいったら…正体がサルでした。サルが逃げれるように盗んでいったのが面白かった。
- ◆どうして手回しオルガンのおじさんは、町角で気味の悪い歌を歌っていたのか？まず、小さな子を怖がらせるところに引き込まれていきました。そしてキミワリーナの正体は何なのか？目的は何なのか？気になって、最後は町中から盗んだもので気球を作って、サルが逃げたという話でした。盗むのは良くないけど、気球を手作りしてまで、逃げてしまいたかったんだと思いました。



『生きものがきえる』

- ★この本にのっている動物や他の生き物は、自然のスピードの100倍、1000倍以上で絶滅していると初めて知りました。生活でも生きものを食べたり、使ったりするので、生き物の大切さを実感することができました。
- ◆人間の都合だけで生きものを殺していた結果、絶滅が心配される生きものが増えていることがよくわかりました。一つの生き物が消えると、その周りの生き物にも影響が出て、バランスが崩れ、さらに多くの生き物、自然が消えていきます。地球のためにも、生物多様性は大事なことだと改めて感じました。
- ◆人間の身勝手に動植物を乱獲したり、自然破壊することは慎まなければならない。人間は生物ピラミッドの頂点にいるので、いつかは人間が絶滅してしまうことに繋がると思う。



【高学年】

『もりのホテル』

- ★絵がとてもかわいくて、見るだけでも楽しかったです。それに細かく描かれていてすごいと思いました。コックのお父さんが作る料理を食べてみたいので、いつか泊まってみたいです。絶対おいしいと思います。今度は別のふくぎわさんの本を読みたいです。
- ◆ふくぎわゆみこさんの作品は、とても大好きで、何よりふんわかする内容と細部まで描かれた絵がおすすめです。久しぶりに絵本を読みましたが、たまには良いものですね。

『わたしの1番あなたの1番』

- ★1番も大切だけど、この本を読んで、自分の1番、違う人の1番は、違うということがわかりました。これからはこのことを忘れないようにして、自分の1番を見つけたいです。
- ◆1番もいちばんもどちらも素晴らしい才能だと思います。自分の中のいちばん、そう思えることがもっと大切だと思います。子ども達にもそれに気付けるようになってほしいと思います。

『山のいのち』

- ★山はこうやって回っているんだなあと思いました。自然の綺麗さを表す言葉がいっぱいあったので、気持ちがよくなりました。
- ◆山には川が流れ、水があって魚もいる。我々はたくさんの命をいただいて生かされている。祖父から山の命の尊さを教わり、目の当たりにすることで、戸惑いながらも少しずつ自然の「おきて」を知っていく様子も描かれている。いのちとは…考えさせられる一冊です。

『こぎつねコンとこだぬきポン』

★はじめは、2匹のお母さんやお父さんに遊ぶのを反対されていました。そこでこっそりいつも会っている場所ではけっこをしました。そのとき2匹は入れ替わって家に帰りました。私は大丈夫かなと思いました。すると寝ているときに元の自分に戻ってしまいました。その時の絵がとてもかわいいなと思いました。最後は、みんな仲良くなって良かったなあと思いました。

◆私が子どものころ読んだこの本は、絵がとてもかわいくて印象に残っています。今回、子どもと読んでいる時も「かわいい、かわいい」と言いながら2人で読みました。「ともだち」って何なのか知らなかったきつねのコンとたぬきのポンが会って、「ともだち」になるお話です。相手のことを思いやる気持ち、読んでいくうちに「ともだちっていいなあ」と思わせてくれました。

『デビット・マッキー』

★エルマーとウィルバーは、知らなかったけど優しいということがわかりました。自分のお腹がすいて、帰ろうとして「えっ」と思ったけど、助けていたので優しいなと思いました。

◆エルマーは今まで知っていましたが、「エルマーとウィルバー」のお話は初めて読みました。絵本の絵がとてもカラフルでとても可愛かったです。みんなで協力してウィルバーを助けてあげて、とても優しいゾウ達だなと思いました。

◆エルマーの物語は読んだことがあったけど、この「エルマーとウィルバー」は初めて読みました。みんなでウィルバーを助けてあげるところで感動しました。

◆「エルマーとウィルバー」という本は初めて読みましたが、エルマーというゾウはとても優しいゾウだなと思いました。



『小さなぎんの星』

★しんぶ様という人が折り紙で作った銀の星を、ふみ子のおばあちゃんに、病気を治してという思いで、あげたところが私は好きです。私は、おばあちゃんの病気が治ってほしいと思いました。

◆一人一つずつもらえるおもちゃより、手作りの星の折り紙の方が…物より気持ちが大事だなと思いました。おばあちゃんからふみちゃんに作った、赤い帽子もほっこりしました。



『わたしのとくべつな場所』

★メアリーがパトリシアに「おまえはりっぱだよ」と、はげましていて優しいなと思いました。まっすぐ前を見て歩きなさいという言葉も好きです。

◆メアリーさんがパトリシアをなぐさめているところが気に入っています。

◆不公平や不平等をしょうがないと諦めずに、おかしいと言えるパトリシアのまっすぐさが素敵だなと思いました。「誰でも自由に入ることができます。という図書館を「自由への入り口」と呼ぶところが好きです。

『火のカッパ』

★戦争の時にケンタとおばあちゃんとお父さんが火の中に巻き込まれて…火のカッパがケンタとおばあちゃんとお父さんを助けるのはすごいと思いました。

◆表紙からは想像もしなかった戦争の話で、今ある平和の大切さを伝える良い話でした。カッパは水の中だけど、火のカッパ?と考えさせられました。

『おとなになれなかった弟たち』

- ★ヒロユキは、戦争で食べ物が少なくて飢え死んでしまった。戦争がなかったらヒロユキは生きていたので戦争はいけないと思いました。
- ◆戦争はもう二度としてはいけないと思わせてくれるような絵本だと思います。なくなったヒロユキを抱え家に帰る場面があり、その場面を見るととてもむなしくなりました。大人になることができなかった、ヒロユキなどの子ども達のためにも、もう二度と戦争をしてほしくないと思っただけではないかと思えます。

『マララ・ユスフザイ』

- ★主人公のマララは人思いなんだと思いました。この本を読んだ人は、生活に困っている人がいるということも知れると思いました。
- ◆日本以外にも生活に困っている人がたくさんいるということがわかりました。また、そういう人のことも考えて生活していきたいです。



『いのちをいただく～みいちゃんがお肉になる日』

- ★仕事をやめようと考えている坂本さんを、しのぶくんや牛のみいちゃんが変わるお話でした。牛を殺したくなくてやめようという坂本さんの気持ちも、みんなにお肉を届けるかっこいい仕事だからやめてほしくないというしのぶくんの気持ちもよくわかりました。また、女の子と一緒に育ってきたみいちゃんを食べていて、自分の牛を自分で食べることはつらいことだとよくわかりました。一つ一つの命に感謝して食べていきたいなど改めて感じました。
- ◆坂本さんの葛藤する気持ちが理解できました。お父さんの仕事を恥ずかしく思うしのぶさんに対し、声をかけて教えてくれた先生が素敵だと思いました。また、女の子にとって育てていた牛を食べるなんて、辛かったと思うけど、「おいしかぁ～」と言えたことがすごいと思いました。
- ◆牛のみいちゃんの涙を見て、改めて命をいただくことの大切さを感じました。これからも感謝をしていただきたいと思えます。

『雪渡り』

- ★四郎とかん子の兄弟が狐の幻燈会へ行く場面が面白かったです。紺三郎と四郎たちが初めて会ったときは、狐がだますのかと疑っていたけど、最後は狐たちを信じていたので私もうれしい気持ちになりました。
- ◆「堅雪かんこ、凍み雪しんこ」と四郎とかん子の兄弟が言いながら雪の上を楽しそうに歩く姿と、凍った雪に日が当たってキラキラ光る景色が浮かびました。小狐やキツネの生徒にあって交流したことにより、人間が狐に対する思い込みや悪い評判をなくせたのが、お互いのためになって良かったと思いました。



これからも『家読』
よろしくお願いします！